

地元密着型スポーツ雑誌の創刊要因に関する一考察
- 『山梨スピリッツ』を例にして -
A Study on the Factor for the Foundation of a Local Sports Magazine
- a Case Study of *Yamanashi Spirits*

◎松実 明¹
Akira MATSUMI

¹上智大学院文学研究科新聞学専攻博士後期課程
Doctoral Program in Journalism, Graduate School of Humanities, Sophia University

要旨・・・近年、全国各地で地元密着型スポーツ雑誌の創刊が相次いでいる。しかし、このスポーツ雑誌の歴史はごく浅いため、その研究は、数においても、成果においても十分とは言い難い状況であるといえる。

従来、地域のスポーツ情報は、マスメディアによって報道されてきた。しかしスポーツを取り巻く情報環境の発展がきっかけになって、インターネット上のスポーツ情報も無視できない存在になり、またマスメディアのスポーツ報道も変化した。

本研究は地域テレビ局が自社制作したスポーツ番組の変化と地元密着型スポーツ雑誌の創刊との関係を明らかにして、このスポーツ雑誌の創刊要因を考察することを目的とする。本調査により、テレビのスポーツ報道に生じた変化が基因になり、スポーツ雑誌は、テレビを補完するメディアとして機能していることがわかった。したがってテレビのスポーツ報道に生じた変化は、スポーツ雑誌が創刊する一因になったと考えられる。

キーワード スポーツ雑誌、スポーツ報道、メディアミックス、地域活性化

1. 研究の目的

「出版不況」という言葉がささやかれるようになってからずいぶん経つ。雑誌の発行部数の減少による休刊や廃刊、老舗出版社の倒産など出版業界は苦境に立たされている。ところが、このような業界事情に逆行するかのようになり、近年、全国各地で地元密着型スポーツ雑誌の創刊が相次いでいる。この雑誌の特徴は、地元出身者・地元在住者のスポーツを専門に報じていることである。【図表1】

【図表1】2014年 - 2015年に創刊した地元密着型スポーツ雑誌一覧（2015年9月30日現在）

創刊年月	タイトル	都道府県
2014年1月 ¹	いばらきスポーツニュース MOVE	茨城県
2014年6月	山梨スピリッツ	山梨県
2014年6月	Standard 愛知	愛知県
2014年7月	Standard 宮城	宮城県
2014年7月	BQベースボール九州	福岡県
2014年8月	D-sports.SHIZUOKA	静岡県
2014年10月	Standard 神奈川	神奈川県
2015年2月	MI YAG I ONE DREAM	宮城県
2015年2月	Hyogo Nine	兵庫県
2015年4月	yellspots 青森	青森県
2015年4月	yellspots 千葉	千葉県
2015年8月	yellspots 奈良	奈良県
2015年8月	yellspots 福岡	福岡県

¹ リニューアル創刊。

また地元密着型スポーツ雑誌の出版元、発行間隔、発行形態などは多様であるが、これらの多くに共通する特徴は、スポーツが地域活性化と関連づけられていることである。たとえば季刊誌『山梨スピリッツ』（2014年創刊）「山梨をひとつにするのはスポーツだ」などがある。

これまでもスポーツ雑誌に関する研究は、数多くされてきたが、研究対象を地元密着型スポーツ雑誌に限定すれば、その歴史がごく浅いため、地元密着型スポーツ雑誌に関する先行研究は、その数においても、成果においても十分とはいえない状況であるといえる。

従来、地域のスポーツ情報は、新聞・地域ラジオ/テレビ局の自社制作番組・CATVのコミュニティチャンネル等で報道されてきた。しかし2000年-2010年に、ブロードバンド時代が到来し、インターネット上で高速・大容量の情報送受信が可能になり、これまで一方的な情報の受け手であった大衆が自らの興味・関心に応じてスポーツ情報を得ることができるようになった。2010年代からは、SNSの広がりをもとに、これまでスポーツコンテンツ提供の中心的存在だった大手マスメディアの地位が脅かされるようになった²。こうして近年では、インターネット上のスポーツ情報も無視できない存在になった。その一方で、これがきっかけになって、マスメディアのスポーツ報道も変化しており、マスメディアは、現在もなおスポーツと地域の関係において重要な役割を果たしているのではないだろうか。

本研究は、メディアが行うスポーツによる地域活性化の取り組みに注目して、既存メディアのスポーツ報道に生じた変化が地元密着型スポーツ雑誌の創刊に何らかの影響を与えたのではないだろうかという問題意識のもと、本発表では、地域テレビ局が自社制作したスポーツ番組の変化と地元密着型スポーツ雑誌の創刊との関係を明らかにし、地元密着型スポーツ雑誌の創刊要因を考察することを目的とする。そこで、数ある地元密着型スポーツ雑誌のなかから、テレビ番組と雑誌のメディアミックスである『山梨スピリッツ』に注目する。スポーツ雑誌『山梨スピリッツ』（2014年6月創刊）は、YBS山梨放送（以下、YBS）が発行する季刊誌である。なお本研究は、『山梨スピリッツ』に関する事例研究であるから、地元密着型スポーツ雑誌の創刊におけるテレビの影響を一般化できないと考える。この他の事例については今後の研究課題とする。

2. 研究の方法

本研究は、テレビ番組とスポーツ雑誌のメディアミックスの先駆けになった季刊誌『山梨スピリッツ』を対象にした。雑誌『山梨スピリッツ』は、創刊の際に、地元密着型スポーツ雑誌の草分け的存在である『standard 岩手』（2010年創刊）からノウハウの提供を受けて、YBSが毎週日曜日17時00分から放送するテレビ番組『山梨スピリッツ』の番組内容と連動するという特徴を持つ。このテレビとスポーツ雑誌のメディアミックスは、その後、静岡第一テレビのテレビ番組『D-sports SHIZUOKA』（毎週土曜日23時30分～23時55分放送）と雑誌『D-sports SHIZUOKA』（2014年8月創刊）との間にもみられる。

本研究は、インターネットが普及し始めた2000年と2015年を調査期間として、スポーツ番組に生じた変化の背景と雑誌の創刊経緯を明らかにするために、山梨放送スポーツ報道制作部長・『山梨スピリッツ』編集チーフ（当時）である前田真宏氏に対してインタビュー調査を行った。

3. 得られた知見

(1) スポーツ番組の変化

YBSが自社制作した地域のスポーツ情報を扱う番組を2000年4月期（スポーツ番組数・その放送時間）と2015年4月期（スポーツ番組数・その放送時間）で比較したところ、2015年4月期は、2000年4月期に比してスポーツ番組が増加していることがわかった。2000年には、レギュラースポーツ番組は放送されていなかったが、2015年4月期には、『山梨スピリッツ』（毎週日曜日17時00分～17時22分放送）と『ヴァンTV』（毎週土曜日22時54分～23時00分放送）の合計2本のレギュラースポーツ番組が放送されている。【図表2】

【図表2】 スポーツ番組数とその放送時間の比較

	月間番組数合計	月間放送時間総計
2000年4月期	0本	0分
2015年4月期	8本	112分

²金山勉「スポーツとインターネット」中村・高橋・寒川・友添（編）『21世紀スポーツ大辞典』（2014年、大修館書店）、pp.768-771。

(2) スポーツ報道の体制整備

YBSは、開局以来、「スポーツのYBS」を掲げており、地域のスポーツ大会の開催などを通じ、長年スポーツと関わってきた。しかし人口減少や高齢化、情報環境の変化に直面し、ローカル局が生き残るための取り組みとして、あらためてスポーツ文化の魅力に着目し、これからのメディアがやるべきことの一つとしてスポーツに力を入れることを挙げている。その一環として、2012年にスポーツ専門部、スポーツ報道制作部を立ち上げた。それまで、スポーツニュースは報道部、試合中継はテレビ制作部と分かれて活動していたので、現場で報道部のクルーとテレビ制作部のクルーが出会うこともあった。スポーツ報道制作部は、分かれて活動していたスポーツに関わる部を統合した。これにより人的・物的資源が効率化された結果、スポーツ報道の取材体制が強化されたので、幅広く地域のスポーツ情報を報道する環境が整った。スポーツ報道制作部のコンセプトは、「スポーツで山梨を盛り上げる」「スポーツで山梨を元気にする」であり、このコンセプトを基に、番組を制作し、雑誌を編集している。

(3) スポーツ番組の核となった「ヴァンフォーレ甲府」

2000年4月期までにスポーツ番組が放送されていなかったのは、スポーツ番組の核となる競技がなかったため、スポーツを専門に扱う番組をレギュラーで放送することが難しかったからである。

多くの地域でプロスポーツチームがスポーツ報道の核になっている。山梨県には、唯一のプロスポーツチームとして、サッカーJリーグのヴァンフォーレ甲府があるが、成績低迷期だった2001年頃まで定期的にヴァンフォーレ甲府を取り上げるメディアは、ラジオ（YBS）だけで県民からの注目度も小さかった。このような状況だったヴァンフォーレ甲府に転機が訪れたのは、2002年の年間順位7位(J2)・2003年同5位(J2)・2004年同7位(J2)と、戦力が充実して他のクラブの戦力に比べて遜色がなくなり、J2リーグで結果を残せるようになったことである。この頃から、街の中に、人々の生活の中にヴァンフォーレ甲府が入ってきた。

2005年、ヴァンフォーレ甲府がサッカーJ1に昇格すると、クラブに対する県民の期待が高まり、サッカーを通じて地域が盛り上がった。これ以降、ヴァンフォーレ甲府は、J2に降格したシーズンもあったが、スポーツ番組の核として機能している。

『山梨スポーツ応援団 VENT スポ』（2006年 - 2010年）は、ヴァンフォーレ甲府がサッカーJ1に昇格したことを契機に放送が始まったスポーツ番組である。この番組は、チームカラーの青を基調としているように、ヴァンフォーレ甲府のニュースを中心としながらも、一部のコーナーでは県内のスポーツ情報も扱った。この番組は、1年の休止期間を経て、現在放送されている『山梨スピリッツ』に改編された。

(4) テレビ番組『山梨スピリッツ』の特徴

ヴァンフォーレ甲府は、県民からの注目を集めるようになると、地域スポーツの中心的役割を担うようになった。ヴァンフォーレ甲府がスポーツ文化の中心になり、県民のスポーツに対する関心を高めて、ラグビー、水泳、バレーボール、バスケットボールなど、さまざまな地域のスポーツが盛り上がりようになった。

スポーツで山梨を盛り上げるために、テレビ番組『山梨スピリッツ』（2011 - ）を通じて、ヴァンフォーレ甲府ファンに、他のスポーツも知ってもらいたい。同様に他のスポーツファンにヴァンフォーレ甲府を知ってもらいたい。そのためテレビ番組『山梨スピリッツ』では、ヴァンフォーレ甲府のニュースと他のスポーツニュースを並列的に報道している。これに対し、ヴァンフォーレ甲府ファンの視聴者は、ヴァンフォーレ甲府コーナーの放送時間延長に関する要望をテレビ局に寄せている。しかし、スポーツで山梨を盛り上げるためには、ヴァンフォーレ甲府が盛り上がりなければならないが、他のスポーツも盛り上がりなければならないので、テレビ番組『山梨スピリッツ』の並列的な報道を改める予定はない。

なお、テレビ番組『山梨スピリッツ』は、YBSの看板番組の一つで、その平均視聴率は13% - 14%であり、スポーツを通じた地域活性化を理念とする番組制作は多くの県民から支持されている。

(5) 雑誌『山梨スピリッツ』の創刊経緯

テレビ番組『山梨スピリッツ』は、なるべく多くのアスリートに脚光を浴びせたいが、放送時間という制約のなかで報道できるスポーツニュースは限度がある。そこで番組内容と連動している雑誌『山梨スピリッツ』は、テレビで扱うほどではないアスリートやマイナースポーツのアスリートも取り上げるため、取材先の大会等では大量の写真を撮影し、できる限り多くの写真を誌面に掲載する。

また、山梨の子どもたちの写真を多数掲載するのは、その子どもたちが、雑誌『山梨スピリッツ』に自分の写真が載ったことを励みにして、もっと頑張ろうと競技に打ち込んでくれるならば、「スポーツで山梨を盛り上げる」ことができ、「スポーツで山梨を元気にする」ことができるからである。

このほか、雑誌『山梨スピリッツ』には、テレビ番組『山梨スピリッツ』が過去に特集したアスリートのその後を伝える「Future From」のページがある。テレビは、かつて番組で特集したアスリートが、その後どうなったのかを伝えることを不得手としているので、雑誌『山梨スピリッツ』「Future From」が、テレビに代わって「番組で特集したあの子は今」を報道する。

(6) 考察と結論

2000年以降、インターネットの普及が起因したスポーツを取り巻く情報環境の発展により、マスメディアのスポーツ報道も変化を迫られることになった。YBSは、情報環境の発展などに対応するべく、2012年に報道部とテレビ制作部から独立する形でスポーツ報道制作部を発足させた。この改革により、スポーツ報道に投下する資源の効率化が図られ、スポーツ報道の取材力が強化されたので幅広く地域のスポーツ情報を報道できる環境が整備された。

また、ヴァンフォーレ甲府がスポーツ報道の核になることによって、レギュラーのスポーツ番組放送がはじまった。このクラブは、地域スポーツの中心的役割を担い、県内にスポーツ文化が形成され、さまざまなスポーツも盛り上がりを見せた。

これらにより、YBSが扱うべきスポーツ情報は増加したが、テレビは放送時間の制約から全てのスポーツニュースを番組内で紹介することはできない。またテレビは、かつて番組で特集したアスリートが、その後どうなったのかを伝えることを不得手としている。そこで番組内で紹介できなかったスポーツ情報をテレビに代わり報道するメディアが必要になった。その結果、雑誌『山梨スピリッツ』が創刊し、テレビ番組『山梨スピリッツ』が過去に特集したアスリートのその後を伝える「Future From」のページが設けられた。このことから雑誌『山梨スピリッツ』は、テレビを補完するメディアであると考えられる。

このようにYBSのスポーツ報道に生じた変化と雑誌『山梨スピリッツ』の創刊との間には密接な関係があることがわかった。たしかにヴァンフォーレ甲府が、スポーツ文化を形成したことによって、テレビのスポーツ報道が増加したことは否めない。しかし、地域のスポーツ文化の魅力に着目する社の方針を背景としたテレビのスポーツ報道の変化がなければ、YBSがスポーツ雑誌を創刊することはなかった。この関係から、テレビのスポーツ報道に生じた変化は、地元密着型スポーツ雑誌が創刊する一因になったと考えられる。

また「スポーツで山梨を盛り上げる」「スポーツで山梨を元気にする」というコンセプトのテレビ番組『山梨スピリッツ』の平均視聴率が13% - 14%であることは、プロ・アマメジャー・マイナーを問わずにさまざまな地域スポーツを取り上げる報道、また、それらのスポーツを地域活性化と関連づける報道を、視聴者が支持していることの証左であり、このような県民志向もスポーツ雑誌創刊の一因になっていると推察できる。

参考文献

- 伊東明「日本における体育・スポーツ雑誌の歴史」『上智大学体育』no.2、1969年。
- 上田真之介「地域スポーツを対象にしたメディアによる地域振興とその課題」『地域課題研究』、2013年。
- 牛山佳菜代『地域メディア・エコロジー論 地域情報生成過程の変容分析』芙蓉書房出版、2013年。
- 岡崎満義「「ナンバー」初代編集長が明かす創刊秘話とスポーツ総合誌の可能性（特集 スポーツ・ジャーナリズムの憂鬱）」『ジャーナリズム』no.230、2009年7月号。
- 金山勉「スポーツとインターネット」中村・高橋・寒川・友添（編）『21世紀スポーツ大辞典』大修館書店、2014年。
- 神原直幸「スポーツ・ジャーナリズムの諸問題」武市・原（編）『グローバル社会とメディア』ミネルヴァ書房、2006年。
- 北田明子「スポーツと言語表現：スポーツ雑誌」『文化研究』no.14、2000年。
- 黒田勇『メディアスポーツへの招待』ミネルヴァ書房、2012年。
- 佐幸信介「特集1 テレビ60年 地域と民放 その2 山梨放送」『ジャーナリズム&メディア』第8号、2015年3月。
- 塩澤実信『戦後出版史 昭和の雑誌・作家・編集者』論創社、2010年。
- 「山梨のサッカー」編集委員会『山梨のサッカー - 過去・現在・未来をつなぐパス -』山日ライブラリー、2009年。
- 「こだわり満載、ご当地スポーツ誌 アマ注目、ドラマ手厚く」『朝日新聞』2015年2月26日朝刊。
- 『山梨スピリッツ』YBS山梨放送。